

平成24年度学力向上の取組について

函館市立 中央小学校 学級数 学級数 14 (含む特支 2)

視点1：アプローチの視点に基づいた、「組織的」で「つながり」（学びの連続性・学校内外の連携）をもった取組

重点教育目標 「思いやりの心をもち生き生きと活動する子」

A 各教科・領域等における系統性や、他の教科・領域等との関連に配慮する

B 長期的な見直しをもって、学習内容を確実に定着させる

C 校内研究の進め方を見直す

D 授業公開や外部への公開・発信を生かす

取組の概要

「中央小学校の6年間の家庭学習」というものをしっかりと押さえ、まずは、教職員での共通理解を図り、その後は、保護者資料を作成し、家庭への協力を得ながら、学習面のみならず、生活習慣を見つめ直させながら、「ノート」を媒体として、子どもと、家庭、教師が一体となって、進めていく「家庭学習のススメ」に取り組む。

○ 取組のきっかけ

ここ数年の CRT や全国学力テストでの、学力の定着度がなかなか上がらない現状を打開したいという教職員の強い思いと、新学習指導要領完全実施の年でもあり、しっかりとした「学び」を子どもたちに指導していかなければならないという厳しい局面を迎えていた学校の実情を踏まえての取組

○ 取組の位置付け

今までは、学年団や学級担任に任されていた「家庭学習」の啓発活動だったが、保護者も巻き込みながら、学校（教務部主導で、中央小の6年間の家庭学習という押さえ）として、取り組んでいくことの確認

○ 取組の方法

まずは、教職員間の温度差を埋めるべく、職員会議にて積極的に資料を提供し、何をしながら、何を目指していくのかという、根本的な理解を進めた。

そして、先行実施していた学級の取組例を、実際に使用したノートなどを提示し、イメージの共通化を図った。

次に、保護者へ向けた啓発資料を作成した。具体的に何を使ってどのように取り組んでいくかが、保護者の目線から理解できるようなものを目指した。（基本方針、学習環境作り、実施に当たっての約束事項、自主性の度合いで示したステップなど）また、保護者へのアプローチとして、同時に行ったのが「生活習慣の見直し」（生徒指導部主導）とリンクさせて行ったということが、重要なポイントとなる。これらは「中央小学校の一年」という保護者へ向けた配付資料で、子どもたちの学習や生活、体力作りや文化的な活動、そして、授業や指導等を、おおよそいつどのようなことを行っていくかという一覧表にも示されている。中央小では、各分掌にて「今年度の重点実践事項」をピックアップして、今年度、具体的に何に取り組んでいくかを明確にしている。それらが保護者にもわかるように「中央小学校の一年」という一覧表にまとめられて、配布されている。これにより、保護者も中央小の特色や今後何に取り組んでいくのかという、見通しが持てる。

重要なのは、教職員のしっかりとした共通理解と、学習習慣と、生活習慣の指導をリンクさせて行っていくと言うことである。

これらの家庭学習の実践は、校長室前に交流の場を設け、今まで使用したノートの展示を行うことで、各学年の発達段階の傾向がわかったり、保護者も学年が上がるとどのような取組をさせていけば良いかヒントを得ることができる。実際に、休み時間などには子どもたちがノートを見ている姿を多く見かける、また、保護者が来校した際にも、いろいろな学年のノートを手になっている。また、学期に1回程度、「子どもの学び便り」（教務部発行）を家庭に配布し、家庭学習の啓発と、実践紹介を行っている。

取組の成果と課題等

○ 取組の成果

・取組の状況

引き続き、各学年の、学級にて実践的に取り組みを継続している。校長室前の交流の場には、各学年の実践の足跡として、使用済みの家庭学習ノートが置かれ、交流されている。

- (成果) → ・要となる教師からの一言のコメントで子ども達のやる気を引き出している。担任と子どもやりとりが保護者の目にもよく映っているようである。(現在集計中の年度末保護者アンケートより)
- ・模範的なノートを学級通信で紹介するなど、よりよい家庭学習の内容をめざして取り組んでいる学級もある。
 - ・自ら考えて家庭学習に取り組める子が増えてきている。学習内容も個人差はあるが、工夫された物となってきている。
 - ・毎日ノートを活用した家庭学習に取り組むことで、ノートの使い方が上達してきている。研究との関連で言えば、気付いたことをメモする欄を設けることで、様々な気づきが書かれるようになってきたり、授業後の感想を書くことが日常的に行われたりするようになった。

○ 教育課程検証の方法

- ・例年通り、1月末の年度末学校評価会議にて、各分掌の重点実践事項を中心とした反省を行う。
- ・年度末学校評価の時期に合わせて、教育活動保護者アンケート（評価項目は各分掌の重点実践事項とある程度リンクさせている）をとり、保護者の目線からも改善をして行く。
- ・本校の年度末反省会議の位置付けは、新年度準備にも関わるので、各分掌にて次年度の方向性まで決め、最終的に教務部で調整をかけて、次年度の年間行事予定等を決定する。
- ・カリキュラムについては、各学年版を2冊（教科版も別途編成）配置して、実践してみてもの不都合などは朱書きし、次年度に見直しをかける際に参考とするようにする。